道しるべ

第61号

令和７年８月

一般社団法人 石川県舗装業協会

写真： 国道249号 大川浜工区〔輪島市町野町大川～渋田町〕緊急復旧道路（2024.12.20撮影）
（写真提供：国土交通省 北陸地方整備局 能登復興事務所）

目　　次

石川県の社会資本整備の取組
石川県土木部長　本 田　　琢 …………………………………… 1

地元に30年ぶり、整う日々
辰村道路（株）　代表取締役社長　山 本 信 哉 …………………… 2

安全委員会だより
令和７年度　ほそうセーフティ・ドライブ・コンテスト
安全委員　中 村 博 昭〈吉田道路（株）〉 …………………………… 3

2024年度 国土と交通等に関する知事表彰 工事報告
沢田工業（株）　現場代理人　小 林 正 治 ………………………… 5

イカが釣れた！
北川ヒューテック（株）　総務部　内 田 貴 之 ……………………… 7

私にとってのゴルフとは
丸建道路（株）　代表取締役社長　大 竹 哲 也 …………………… 8

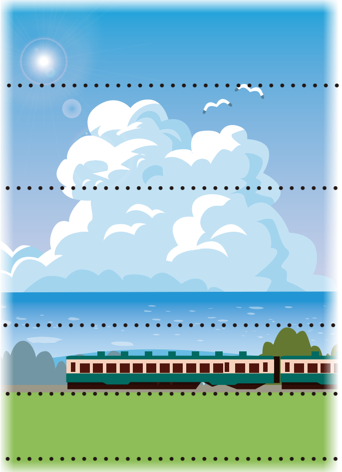
最近はまっている事
（株）太陽アスコン　代表取締役社長　清 水 廉太郎 ……………… 9

働くということ（元気くん）
加州建設（株）　工事部　梶 原 将 輝 ……………………………10

思えばここまで来たもんだ（二人三脚）
「我が家は五人六脚」
丸建道路（株）　金沢支店 営業部長　山 口 竜 博 ………………11

事務局アラカルト ……………………………………………………12

「がんばろう！！能登」トピックス ………………………………………14



環境にやさしい道路づくり

吉田道路株式会社
丸建道路株式会社
林舗道株式会社
辰村道路株式会社
太陽工業株式会社
盛進工業株式会社
島屋建設株式会社
三友工業株式会社
沢田工業株式会社
協和道路株式会社
北川ヒューテック株式会社
株式会社金沢舗道
加州建設株式会社
石川舗道株式会社

一般社団法人 石川県舗装業協会員

石川県の社会資本整備の取組

石川県土木部長

本　田　　　琢

石川県舗装業協会の皆様には、日頃より本県の社会資本整備にご理解とご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。また、令和６年能登半島地震や令和６年奥能登豪雨の応急復旧にご尽力いただきましたこと、更には、昨冬の大雪時において、昼夜を分かたず除雪に取り組んでいただき、円滑な交通が確保出来ましたことに重ねて御礼を申し上げます。

昨年の能登半島地震や奥能登豪雨では、多くの尊い命が失われ、住み慣れた地域の暮らしが根底から覆される深刻な被害が発生しました。こうした中、未曽有の災害からの復旧は、国や他県からのご支援をいただきながら、少しずつ進んできております。

土木部においては、「令和６年能登半島地震及び令和６年奥能登豪雨への対応」、「県民生活の安全・安心の更なる確保」、「人やものの交流の拡大に資する交流基盤の整備」、「公共投資の確保と建設業の経営基盤強化」の四本柱を基本方針として取り組んでいます。

まず、「令和６年能登半島地震及び令和６年奥能登豪雨への対応」については、甚大な被害を受けた道路や河川、港湾などの公共土木施設等を国などの関係機関と連携しながら、引き続き早期復旧に向け取り組んでいくとともに、創造的復興に向けて、のと里山空港を中心とした高規格道路ネットワークの構築や、眺望に優れた半島沿岸部を周遊する「能登半島絶景海道」の整備にも取り組み、地震・豪雨の教訓を踏まえた災害に強い地域づくりを進めることとしています。

次に、「県民生活の安全・安心の更なる確保」については、激甚化、頻発化する自然災害に備え、「流域治水」の考えに基づいたハード・ソフト両面での対策を県下全域で講じるほか、道路の落石対策など緊急輸送道路の機能強化を進めるとともに、県民生活を支える社会基盤のメンテナンスについても怠りなく進めていきます。また、身近な生活道路における舗装補修や通学路の安全対策を進めるなど、県内一円できめ細かな整備を進めることとしています。

また、「人やものの交流の拡大に資する交流基盤の整備」については、金沢外環状道路海側幹線をはじめ、のと里山海道の４車線化や加賀海浜産業道路の整備など、広域交流ネットワークの整備を着実に進めることとしています。

そして、「公共投資の確保と建設業の経営基盤強化」については、引き続き、積極的に事業量を確保するとともに、年度末から年度始めの端境期において、切れ目のない事業展開による公共事業の平準化を図ります。また、建設業の担い手確保に向けて幅広い年代への入職ＰＲを行うとともに、ＩＣＴ建設機械の活用や働き方改革に向けたセミナーを開催するなど、引き続き、建設業の経営基盤強化にも取り組んでまいります。

結びに、石川県舗装業協会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝ご活躍を祈念申し上げるとともに、今後とも、県民の暮らしを支える大切なパートナーとして、更なるご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

地元に30年ぶり、整う日々

辰村道路株式会社
代表取締役社長　山　本　信　哉

初めまして、4月から辰村道路(株)の代表取締役社長に就任しました山本です。

家族は、栃木の宇都宮市に住んでおり、結婚生活のほとんどが、単身赴任になります。今回、30年ぶりに地元・石川に戻ってきました。

あらためて街中を歩くと、昔と変わったところがたくさんあります。観光客の姿も多く、にぎやかで活気がある一方で、どこか落ち着く雰囲気も残っています。そんな中、ふと思い出して、昔、通っていた床屋やバイトしていた喫茶店に行ってみました。

お店の中も、ご主人も、昔とほとんど変わらない。30年前と同じ椅子に腰をかけて、変わらない手つきで髪を整えてもらいながら、何とも言えない安心感を覚えました。自分のことも、お店の話も、ぽつりぽつりと交わす会話が心地よくて、「戻ってきたんだなぁ」と実感した時間でした。

通勤も、今は電車と徒歩が中心です。前はずっと車移動でしたが、駅まで歩くようになってから、自然と季節の変化に気づいたり、街の表情が見えたりして、歩くって意外といいなと思うようになりました。せかせかしていた毎日が、少しだけゆっくりした気がします。

最近は、ゴルフに前向きに取り組んでいます。月に2～3回くらいですが、自然の中で体を動かす時間がとても気持ちいいです。最初は「付き合い」で始めたゴルフも、今ではもう少し上手くなりたいと思うようになり、練習にも熱が入っています。

キャンプや水上バイクも、以前はよく行っていた趣味のひとつです。自然に囲まれて過ごす時間が好きで、心が整うような気がしていました。最近はなかなか行けていませんが、またいつか再開したいなと思っています。

こうして、自分自身の暮らしを少しずつ整えていく中で、今は会社も「行きたくなる場所」にしたいという思いが強くなってきました。今年度、営業所の建替えを行います。社員が気軽に体を動かせるような設備をつくり、働く環境そのものを見直そうとしています。

まちが変わっていくように、会社も変わっていく。でも、床屋のように変わらない安心感も残したい。若い人が入りたくなるような、でも長くいる人にもやさしい、そんな会社をつくっていきたいと考えています。

床屋の鏡越しに映る自分を見ながら、「あの頃と比べて、ちょっとは落ち着いたかな」と思うこの頃です。歩いて、遊んで、働いて…。そんな整う日々を楽しみながら、これからも前向きに歩んでいきたいと思っています。

安全委員会だより

令和７年度　ほそうセーフティ・ドライブ・コンテスト

安全講習会・講演会

恒例の安全講習会・講演会が、本年２月２５日『ＡＮＡホリデイ・イン金沢スカイ』において開催された。昨年は能登半島地震で中止となったため２年ぶりの開催となった。出席者は会員各社の代表者、安全担当者、安全委員、協会事務局など総勢39名が出席した。

１．開会挨拶（会長挨拶）

北川会長より、「２月下旬の除雪作業への感謝」と「今後発注される工事も多いことが予想されるが、県内業者がしっかり対応していくことが肝要であり連携方お願いしたい。」と開会にあたり挨拶があった。

北川会長 挨拶

２．安全講習会

・ドライブコンテスト結果発表

期間は、令和６年10月１日から令和７年１月31日までの4か月間で参加は14社44チーム432名。結果、37チーム（365名）が無事故無違反を達成した。全チームの達成は北川ヒューテック、沢田工業等10社と近年にない多くの会社が達成し安全運転の意識向上が図られた結果となった。達成会社には賞状と記念品が贈られた。個々の達成は、425名という結果であった。

ドライブコンテスト表彰

・ドラコン講評と安全講習会

講評と安全講習を自動車安全運転センター石川県事務所長である泉栄盛三氏から頂いた。

泉栄所長 講評

「4か月と言う長丁場でしたが、参加者の一人ひとりがしっかりと高い意識を持って取り組まれたものと感じている。土木建設業の事故件数比率は全国平均と同程度であるが、違反件数比率は大きく下回っており、今後もこの状態を是非続けていただきたい。」と好評を受けた。また、「違反内容で多いのが30km未満のスピード違反、シートベルト着用違反であり、気の緩みによる違反とも言えるので毎日の運転に一層の注意を払ってください。」と指摘があった。更に、「今年２月に北陸道で起きた酒

気帯びによる逆走運転など後を絶たない飲酒運転の撲滅のため、スクリーニングテストの定期的な実施と社内処分規定の作成を会社として検討してほしい。」と規律の徹底を図るよう依頼された。

３．講演会

演題を「舗装に関する最近の話題と学生の動向について」とし、金沢工業大学教授の高橋茂樹氏から講演を頂いた。

髙橋教授 講演

“舗装に関する最近の話題”では、維持管理の時代を迎えて舗装メンテナンスに関する技術基準類の変遷と内容について説明があった。具体的には、これまでは「造るための基準」であったが「管理する基準」へと比重が移ってきており、それに合わせた点検要領や今後、現場における維持修繕を積極的に行う必要があるとの指摘であった。また、トピックスとして、DX時代を迎えて国交省では道路データプラットフォーム（xROAD）構築し、これまで蓄積された道路点検データを官のみならず民間においても積極的に活用し管理の効率化を図る施策が紹介された。

その成果を見える化（図化）したマップはかなり詳細で分かりやすいものであり、道路管理者にとっては有効に活用できるのではないかと実感した。また、施工業者側の視点として、品質確保の高度化を図るため、センサー等を用いた新技術の導入により現場管理の効率化と舗装長寿命化への取り組みが進行中であると報告された。

“金沢工大の学生に関する話題”では、研究室の特徴として、実社会で活躍できる人間づくりを目指すため、１年生からグループ作業を主体とした研究活動を続けているとのこと。これは23年間就職内定率100％を続けている金工大の実績にも通じるものであるとも言える。また、就職先は建設会社が約５割となっており、地元就職希望が多いことに加えて現場志向が強いとのこと。高橋（舗装）研究室では、最新の点検技術実習に加え、プラントや舗設現場での見学など学外で行うことも多く舗装業協会にもお世話になっているとのことだった。

舗装会社への就職を希望する学生も多いとのことで県協会の一員としても大変心強い情報を頂いたと同時に研究活動の一環として現場見学の提供に今後も積極的に行う必要があると感じた。

４．閉会挨拶（副会長挨拶）

渕田副会長から講師への御礼と閉会の挨拶があり、安全講習会・講演会を締めくくった。

渕田副会長 挨拶

（安全委員　中村 博昭〈吉田道路㈱〉）

令和６年度　国土と交通等に関する知事表彰 工事報告

沢田工業株式会社

現場代理人　小　林　正　治

１．はじめに

本工事は、金沢と能登を結ぶ自動車専用道路「のと里山海道」の柳田 IC ～上棚・矢駄 IC 間の４車線化に伴う舗装工事です。

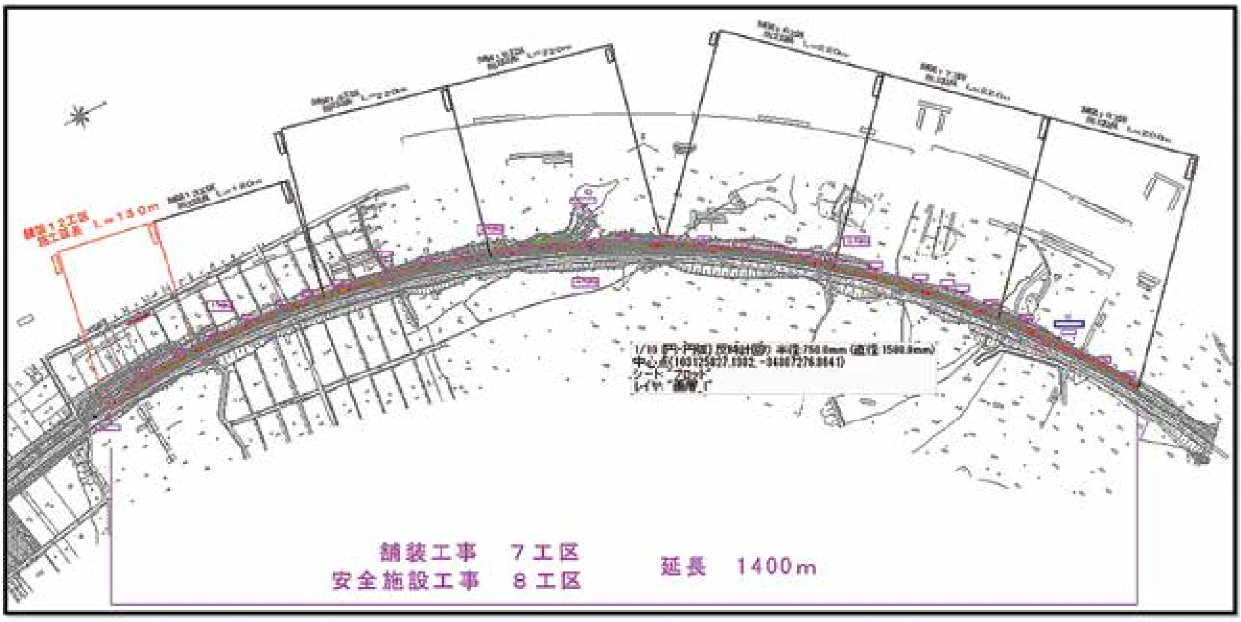
〈着工前写真〉

〈完成写真〉

２．工事概要

- 工 事 名 ：主要地方道　金沢田鶴浜線　地方道改築工事（舗装 12 工区）
- 施工場所：羽咋市寺家町　地内
- 工　　期：令和５年３月 20 日～令和５年８月 31 日
- 工事内容：

施工延長	L＝130 m	表層工	A＝1,343㎡
基層工	A＝1,570㎡	As安定処理工	A＝1,286㎡
上層路盤工	A＝1,551㎡	切削ｵｰﾊﾞｰﾚｲ工	A＝571㎡



３．現場条件

①本工事は、のと里山海道の４車線化工事であり、セパレート供用の日が決まっており厳しい工程での施工である。また、工事車両出入り口が限られる為、安全協議会での調整が必要。

②作業の効率化を図り、決められた期間内に工事を完成させる。

③現道との擦り付け区間があり、夜間急速施工で完了させる必要がある。

４．課題への取組

①工程管理及び隣接工区との調整

・２週間工程表作成（全業者の取りまとめ）及び安全協議会の開催（工程調整）

・新たに工事車両出入り口を１箇所新設、各ゲートの代表者を決めゲート使用の調整を行った

②施工管理の効率化

・上層路盤での ICT 活用工事（ICT 建機、地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理）を行うことにより施工管理の効率化及び品質の向上を図ることが出来た。

ICT 建機での敷均し

地上型ﾚｰｻﾞｰｽｷｬﾅｰ出来形管理

③現道との擦り付け

・夜間急速施工での切削・レベリング・表層

夜間急速施工での現道部との擦り付け

5．おわりに

この度、知事表彰という大変名誉ある賞を賜り誠にありがとうございます。これもひとえに工事に関しご指導・ご協力いただきました中能登土木総合事務所の監督員をはじめ、関連工事業者及び工事に携わって頂いた皆様のおかげと心より感謝申し上げます。今回の経験を機に、更なる技術の向上に励んでいきたいと思います。

イカが釣れた！

北川ヒューテック株式会社
総務部　内　田　貴　之

「やっとイカが釣れた」
　夕暮れの明るさが残る穏やかな海。波は殆ど無くエンジン音だけが静かに響く船の上。その時、水しぶきとともに白く光るものが現れた。やや小振りなアカイカだったが、イカを求めて数年、未だ釣果無しの私にとって待ち焦がれた瞬間である。つい、口から言葉が漏れた。水深約40mの底でゆっくり仕掛けを垂らしていた時、突然竿に重みを感じ、疑念と期待の中、慎重に糸を巻き上げた結果、遂に釣り上げることができた。喜びを抑えながらイカを取り込み、再び仕掛けを静かに沈めていった・・・。

　天気の良い6月の休日、金沢の港から夕方、乗合いの釣船で出航。その日の乗船者達と一緒に心地よい風を受けながら、船はポイントに到着した。釣り船は他にも数隻出航したが、それぞれかなり離れていてほぼ見えない。

船長からの水深アナウンスの後、それぞれ間隔をとって糸を垂らした。
　最近の釣果は厳しく今回もあまり期待できないと船長から聞いていたが、ポイント到着後すぐに釣り上げた乗船者もおり、私も「今日こそは」と期していた。
　水平線に日が沈み、やがて真っ暗な夜の海へと変わった。船長がライトを点灯させ、船とその周囲だけは明るい。その明かりに誘われるように、プランクトンや小魚が集まり、それを追ってイカが寄ってくるという。
　時折、竿をゆっくりと上下に動かし、イカの好奇心を刺激して、しばらく止める。すると、手元に「コツン」と何かが触れたような感覚があり、また竿が重くなった。引き上げてみると、そこには先ほどよりも見事なイカが一杯、足を広げてぶら下がっていた。イカは魚と違って、釣れて海面に出た瞬間によく水を吹き出す。直撃しなかったが、自分の釣ったイカから吹き出す様子を見られたのも良かった。

　これまで釣ってきた魚とは全く異なり、イカの透明な体が集魚灯に照らされて光る姿は、まるで深海からの贈り物のようだった。
　その夜、私は3杯のイカを釣ることができた。刺身にして味わったが、これがまた格別だった。甘みと弾力があり、最高に美味。
次に夜の海へと向かう日が待ち遠しい。

私にとってのゴルフとは

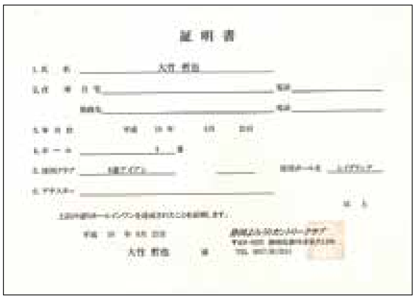
丸建道路株式会社

代表取締役社長　大 竹 哲 也

私がこの道しるべに投稿するのは２回目となりました。１回目は丸建道路の社長に就任した３年前、私の生まれ故郷の愛知県犬山市を紹介いたしました。今回は舗装協会のゴルフコンペで優勝してしまい投稿する事になりました。

私がゴルフを始めたきっかけは20代後半、営業職だった私は上司より「業務の一環」という理由でクラブ一式とバッグを貸与され、真夏に本コースでお客さんとプレーさせられました。当時はカートもありません。上司からの「とにかくお客さんに迷惑掛がからないよう走れ」という命令に率直に従い倒れそうになりながら18ホールを廻りました。私にとって最悪な思い出となっています。その後、安全協力会や各種協会のコンペに参加しましたが今回に至るまで優勝した事はありませんでした。

実は静岡に勤務していた頃　道路大手業者のゴルフコンペでホールインワンをした事があります。キャディー付きの為ゴルフ場より正式な証明書が発行され参加者全員に記念品を贈る羽目になりました。しかし残念なことに当時ゴルフ保険に入っていませんでしたので嫁には怒られ会社からは冷やかされ散々でした。その２週間後またしても同じゴルフ場（ホールは違います）でホールインワンをしてしまいました。その時もまだゴルフ保険に入っていませんでした。下手くそだから保険なんか必要ないと思っていましたが間違って入ってしまう事もあるのでこれを機に加入する事にしました。しかし保険加入後18年経ちますが保険のお世話になった事は一度もありません。



証明書

大竹 哲也

私が最も多くゴルフをしたのが北海道勤務の時でした。それまで月１ゴルフの私が１年目の５月～10月までに50回程度コースを回りました。とにかくプレー費が安くスループレーですから14時に帰宅できるため嫁の顔色を気にする必要がなく最高でした。５月初旬、桜の時季にプレー後　桜の下でジンギスカンを食べた事は今でも良い思い出となっています。２年目（2018年）の９月、北海道で大きな地震が発災しました。その影響でゴルフをする機会がその後全くなくなりました。

今はゴルフ以外に身体を動かす事が殆どないので、嫁も健康のためと思って快く行かせてくれるのですが、翌日以降の腰痛とは今後も長い付き合いになりそうです。

最近はまっている事

株式会社太陽アスコン

代表取締役社長　清　水　廉太郎

この度、６月５日に開催されたアスファルト合材協会の春のゴルフ大会で優勝し、賞品としてめでたく道しるべの寄稿を務めさせていただくことになりました。久しぶりの投稿となりますので、今回はゴルフの事よりも最近、私がはまっている事をお話ししたいと思います。私がすっかり、夢中になっているのがサウナとパーソナルジムです。どちらも以前はあまり興味がなかったのですが、ある日友人に誘われて試してみたところ、その魅力に一気に引き込まれてしまいました。

まずサウナについてですが、最初に入った時は「ただ熱いだけじゃないか」と半信半疑でした。しかし、何度か通ってっていくうちに、サウナ→水風呂→休憩の「ととのう」サイクルがもたらす深いリラックス感に気づきました。汗をかくことで身体がすっきりし、水風呂に入ることで血行がよくなり、最後の休憩時には心身ともにリセットされたような感覚を味わえます。ストレスの多い現代社会において、短時間でここまでリフレッシュできる方法はなかなかないと思います。最近では、週に１回は地元のサウナ施設に通うのが習慣となっています。

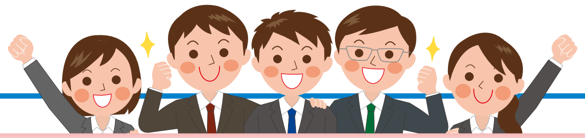
※ TAKIGAHARA SAUNA　（小松市滝ケ原町）

一方で、体づくりを目的に始めたのがパーソナルジムです。これまでは屋外でランニングをしたり、マラソン大会などに参加したことはありましたが、時間に余裕がないとできないこともあり、なかなか継続できませんでした。そんな時にパーソナルトレーナーの存在を知り、思い切って体験レッスンを受けてみることにしました。すると、自分の体の弱点やクセを的確に指摘してもらい、効率的なトレーニングメニューを提案してくれました。さらに食事のアドバイスもあり、体の変化も目に見えて分かるようになり、モチベーションが大きく高まりました。

※パーソナルジム　オプティマル（小松市桜木町）

今では、サウナで心を整え、パーソナルジムで体を鍛えるというルーティンが私の生活の中心になっています。この２つを組み合わせることで、心身ともに健康な状態を維持できていると感じます。忙しい日常の中で、自分と向き合う時間を持つことの大切さを改めて感じています。

これからもこの習慣を続け、さらに自分自身を高めて行きたいと思っています。次は、筋力アップだけでなく、柔軟性や姿勢改善にも取り組みたいと考えています。自分のペースで、楽しみながら成長していけるこの時間が、今の私にとって何よりの癒しであり、活力源なのです。



元気くん

働くということ

加州建設株式会社

工事部　　梶　原　将　輝

この度は「道しるべ」の投稿を仰せつかって大変光栄に思います。

さて、部長に投稿を一任され、何について書こうかを悩みました。身の上話を書こうかとも思いましたが、今回は「働くということ」についての自分の考えを書いてみようと思います。

まず自分の話になりますが、私は3年前に中途入社で加州建設に入社しました。前職では建設業界とは全く別の業界で働いていましたが、労働条件に思うところがあり、知人の縁もあって、転職することを決めました。労働時間、収入、精神的疲労等、転職を考える様々な要因がありましたが、私は働く上で一貫してある考えを持って働いてきました。それは人とのつながりを大切にする、ということです。どんな仕事であっても人とのつながりを捨て去ることはできません。むしろ、それが自分の働く環境に大きく影響してきます。人とのつながりは精神的な支えになり、凝り固まった考えをほぐし、チャンスや可能性を生み出し、自己肯定感を高めてくれます。仕事で成果を残していくために非常に大切な要因であると私は考えています。

昔と比べると働き方や価値観は大きく変化しており、現代は転職が当たり前の時代になっています。そんな変化の中で私たちが大事にしなければならないことこそが人とのつながりだと思います。人と人が支えあえる環境こそがどんな仕事においても成果を生み出す土台になり、働く環境が信頼と尊重に満ちていれば人は自信をもって、自分らしく力を発揮できるようになっていくと思います。

これからも自分と会社がともに成長していくために、人とのつながりの輪をもっと広げていきたいと思います。

〈いしかわ我がまちアドプト制度の活動〉

（(主)金沢美川小松線・金沢市間明町　2025 春）

二人三脚 思えばここまで来たもんだ

3年後に真珠婚式

「我が家は五人六脚」

丸建道路株式会社
金沢支店 営業部長 山 口 竜 博

今回『道しるべ』の原稿依頼があり、しかも『二人三脚』との事でした。

正直、何を書けばいいのか・・・？、何を伝えればいいのか・・・？　迷いました。

まぁ　我が家は『二人三脚』からの『五人六脚』だと思って原稿を書きます。

私が高校を卒業して平成7年4月に丸建道路（株）に入社し4年目の平成10年に妻と出会い即結婚致しました。

その後、平成11年に長男、平成12年に長女、平成21年に次女が生まれ、3人の子供に恵まれ、我が家は5人家族になりました。

今思えば、私は仕事ばかり突っ走っていた気がします、忙しい時には土日関係なく仕事、冬になれば除雪作業等で家をあける事も多くあり、子供達の『入学式・卒業式』は、1度も出席したこともなく、すべて妻任せになっていました。

又、長女の成人式には、大雪の為、除雪作業・待機等で、晴れ姿すら見る事も出来なかった、さすがにこの時ばかりは、心苦しさがありましたね～。

そんな時も、妻は『仕方ないよね～』っと言葉をくれたのは今でも鮮明に覚えています。本当に、『申し訳ない・ありがたい・頑張ろう』と思えました。

そんな中、妻も夜勤のある仕事をしている為、その時は、当然私が『夕飯作り・洗濯・ゴミ当番・弁当作り』も、できる限りやっていますし、やるしかないの気持ちでした。

最初の頃は、子供達に“お父さんの作った弁当、卵焼き味がしない”とか、おかずの入れ物がスカスカ過ぎて“中身カチャカチャになっている”だとか言われ、妻に何度も聞きながら、挑戦し続けてまいりました。そして、いつの間にか、『買い物・炊事・洗濯』ある程度の事は出来る様になったと思っています。これも、妻・子供達のおかげです。（感謝しかありません）

こんな感じで、子供達の成長・私の父親としての成長・妻の私への理解があり、何だかんだと『五人六脚』でここまで来ました。

今では、働き方改革の動きもあり、そこを意識して、時間を作り、家族旅行を計画しようと思います。

家族旅行も13年前に行ったきりで、近年何もしていない為、これを機に、今までの感謝をこめて『家族旅行』に連れて行きます。（絶対に？）

事務局アラカルト

1. 歩いてみよう！のと里山海道（R７.５.11）

内灘町での「世界の凧の祭典」開催日、普段は歩くことができない“のと里山海道”の一部を通行止めにして県民に開放されます。

このイベントでは、「パネル展」・「クイズラリー」・「透水性舗装の実験」・「工事車両の展示・乗車体験」等を通じて、土木に関する知識・理解を深めてもらうことを目的に県が主催するもので、当協会も参画して、舗装・合材に関するアピールを行いました。

2. 石川県アスファルト合材協会　通常総会

（R７.５.13）

令和７年度通常総会は、全会員が出席して、ＡＮＡホリデイ・イン金沢スカイにて開催されました。

北川会長から「能登半島地震の影響により、令和６年度の合材製造量が、11年ぶりに60万ｔを越えた。出荷に大変な思いもあるが、お互い協力しながら安定的な合材出荷をお願いしたい。」との挨拶がありました。

総会では、令和６年度の事業報告・収支決算及び令和７年度事業計画・収支予算が審議され、全て原案通り承認されました。

3. （一社）石川県舗装業協会 定時総会

（R７.６.24）

当協会の令和７年度定時総会が、全会員１４社が出席の上、金沢東急ホテルにて開催されました。

冒頭、北川会長から、熱中症対策に万全を期すよう求めるとともに「震災関連工事において、さまざまな問題が発生しており、協会として意見集約し発注者側に訴えていきたい。」と挨拶がありました。

総会では、令和６年度の事業報告・収支決算及び令和７年度事業計画・収支予算並びに役員選任が審議され、いずれも異議なく承認されました。役員には、北川会長、渕田副会長、塩谷理事、島理事、坂井理事、明星監事など理事・監事８名が再任されました。

また、総会後は、石川県土木部の宮本義浩技監から「令和７年度土木部事業概要」と題した講演会が開催され、会員代表や委員ら40名が熱心に聴講しました。

４.工場立入調査《石川県アスファルト合材協会》
(R７.６.17～27)

石川県アスファルト合材協会の工場立入調査は、毎年６月に実施しており、令和７年度は６月17日～27日にかけて県内全１２工場で実施しました。

この調査は、各プラント工場から選出された品質管理委員が、自社以外の他工場の立入調査を行うもので、協会一丸となって品質の良いアスファルト混合物の製造・出荷に努めています。

調査では、アスファルト混合物の使用材料や混合物の管理品質状況について頻度・規格などを確認するとともに、調査当日の出荷混合物の性状確認や混合時間・混合温度などを調査しています。また法定資格取得状況、各種の届出状況、環境対策状況なども確認しています。

ゴルフコンペ

(一社)石川県舗装業協会

令和７年５月15日（木）：片山津ゴルフ倶楽部
（加賀コース）

		G	H	N
優　勝	大竹哲也（丸建）	94	21	73
準優勝	中谷　英（沢田）	107	33	74
３　位	嵐　敏行（太陽）	106	30	76

ベスグロ賞…北川　隆明（北川）　85

石川県アスファルト合材協会

令和7年6月5日（木）：能登カントリークラブ
（日本海→ハマナス）

		G	H	N
優　勝	清水廉太郎（太陽）	89	20	69
準優勝	山本信哉（辰村）	107	33	74
３　位	吉野　光（辰村）	111	33	78

ベスグロ賞…今井　洋（金舗）　89

◎国土交通省 北陸地方整備局 能登復興事務所は、令和６年２月16日に設置され、能登半島地震からの復旧・復興を促進しています。

国道249号千枚田工区（輪島市）

復旧前（2024年１月11日撮影）

復旧後（2024年12月12日撮影）

国道249号逢坂トンネル工区（珠洲市）

復旧前（2024年６月11日撮影）

復旧後（2024年12月25日撮影）

◎石川県においても、鋭意、能登半島地震からの復旧・復興を促進しています。

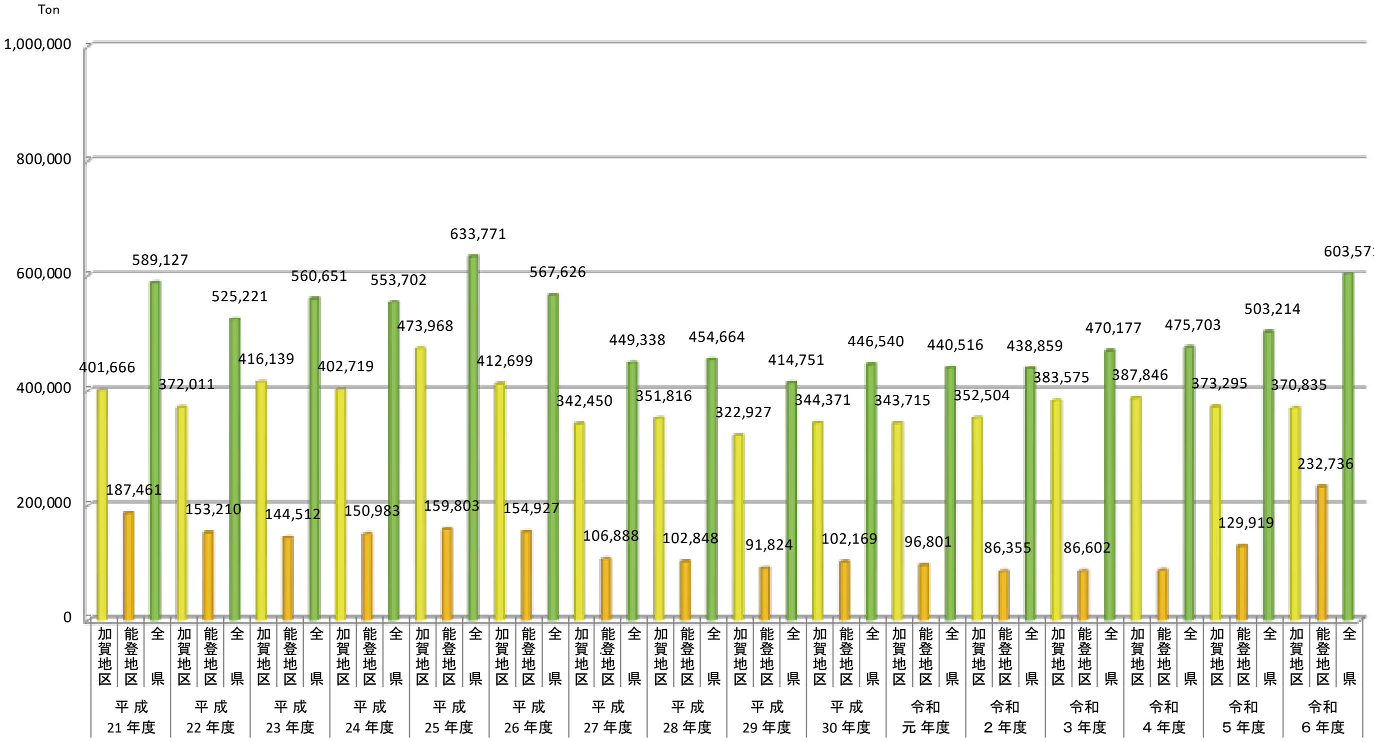
復旧後

国道249号　七尾市中島町

復旧後

のと里山海道　西山IC付近

平成 21 年度～令和 6 年度　アスファルト合材製造量



編集後記

県内では、能登半島地震を始めとする自然災害の爪痕がいまだ深く残っており、避難生活を続けられておられる方々や災害関連死の増加など、厳しい状況が続いています。復興に向かう道のりは決して平坦ではなく多くの方々が不安を抱えながら日々を過ごしています。

そんな中、津幡町出身・大の里関が二場所連続優勝を果たし、それに伴う横綱昇進は何よりも明るい話題となりました。私は昨年の大相撲５月場所を国技館で観戦する機会があり、その迫力に圧倒され益々相撲ファンになりました。テレビの前ではついつい「引き技はだめだ」などと口にしてしまう、いわば「にわか相撲評論家」となり夢中で応援しています。大の里関の快進撃は私たちにとって久々に誇らしい気持ちにさせてくれた出来事であり、これからも被災地の方々に元気を届けてくれることを期待しています。

この会報は協会主催の行事や会員各位の趣味や家族について、様々なエピソードを通じて親しみやすく協会活動を伝えております。今後とも紙面づくりにご理解とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

編集委員　関戸茂樹〈太陽工業（株）〉

道しるべ　令和７年８月　**第61号**

編集･発行　一般社団法人 石川県舗装業協会
「道しるべ」編集委員会

事 務 局　一般社団法人 石川県舗装業協会
〒921-8036　金 沢 市 弥 生 2-1-23
石川県建設総合センター4F
TEL.076-244-1851 FAX.076-244-1833
E-mail：info@ishihokyo.or.jp

国道249号 大川浜工区（輪島市）

復旧前（2024年2月5日撮影）

2024年8月7日　工事用道路整備

国道249号 中屋トンネル

（2025.7.17 通行再開）

二車線通行

「道しるべ」最新２号分は、
（一社）石川県舗装業協会の HP で閲覧できます。
http://www.ishihokyo.or.jp/